

第32回泌尿器科漢方研究会学術集会

代表幹事:堀江重郎(順天堂大学大学院医学研究科泌尿器外科学)

日時:2015年6月20日(土) 13:00~18:05

会場:コクヨホール(東京都)

骨盤臓器脱に伴った慢性骨盤痛症候群における漢方薬の効果について

長崎大学病院 泌尿器科・腎移植外科

○松尾 朋博、 杠葉 美樹、 鹿子木 桂
大庭 康司郎、 宮田 康好、 酒井 英樹

【はじめに】骨盤臓器脱は中年以降の女性に特徴的な疾患であるが、慢性的な臓器脱による血流のうっ滞や虚血、炎症により慢性骨盤痛症候群 (CPPS) を呈することもある。今回、われわれの施設で、骨盤臓器脱によると思われるCPPSに対して竜胆瀉肝湯を処方した症例を経験したので報告する。

【対象と方法】対象は当科で骨盤臓器脱 (POP-Q stage1 もしくは2) と診断された患者のうちCPPSを合併しており、継続的な骨盤底筋運動もしくは内服加療無効の症例とした。竜胆瀉肝湯を1日3回食前に内服してもらい治療開始前と開始3ヶ月後での骨盤痛の評価を0-10までのVisual analogue scale (VAS) でおこなった。またCPPSに代表的な蓄尿症状に関しては過活動膀胱症状スコア (OABSS) を用い、治療前後での変化を評価した。

【結果】解析可能な患者は7名で、平均年齢は74.6 ± 7.8歳であった。VASによる痛みは43 ± 18から26 ± 16と有意に改善した (P=0.018)。またOABSSでは合計スコアが7.6 ± 2.3から6.1 ± 2.8へと低下したが有意差はなかった (P=0.173)。OABSSの各項目別スコアは質問1 (昼間頻尿) が1.9 ± 0.4から1.3 ± 0.8へ、質問2 (夜間頻尿) が2.3 ± 1.1から1.7 ± 1.0へ、質問3 (尿意切迫感) が2.6 ± 1.0から2.3 ± 1.6へ、質問4 (切迫性尿失禁) が1.1 ± 1.2から0.9 ± 1.2へとそれぞれ低下していたが、いずれも有意差はなかった。

また調査期間中、有害事象はなく内服を中止した症例はなかった。

【考察】骨盤臓器脱では解剖学的変位により膀胱や陰部の血流うっ滞や、虚血など様々な血流異常が起こっているものと考えられる。竜胆瀉肝湯は下腹部や陰部の熱感や疼痛がある症例に効果があり、血流改善機能の促進や抗炎症作用もあるとされる。

今回のわれわれの症例では、少数例ではあったものの骨盤痛の有意な改善を認めた。軽度の骨盤臓器脱の患者でCPPSを合併している患者では、処方を検討してもいいのかもしれない。